

若者Box 飢餓のない社会に向けて

私は、多くの食料が捨てられているのに食べ物がなく飢えている人がいることを知った。この現状に対し、何とかしなければならぬと今強く思っている。

ある雑誌の記事によると、世界の9分の1の人が飢えている一方で、私たちは毎日ご飯茶碗1杯分の食料を捨てているという。そしてこのような食料で飢えている何百万もの人を救えるそうだ。つまり、これらは飢えている人のためのものだといっても過言ではない。

現状を変えるために動き出した人もいる。余った食材を飢えている人に分け与える「フードバンク」や、買った食べ物の収入の一部が途上国に寄付される「TFIT」などの活動を行っている人たちがいる。

私は、食べ物を残さないことが食料廃棄物減少への第一歩だと考えた。それを心がけつつ、フードバンクやTFITに参加して、一人でも多くの人を飢餓から救い、世界中の人が幸せに暮らせるようにしたい。

(中学生 神戸市垂水区) 15歳



○私たちの学校とか地域は環境が整っているから、毎日いつもどおりご飯が食べれるけど、それが「当たり前」の生活じゃない」というのを理解しないといけないと思う。いつも給食の時に「嫌い」というだけで残している人がいるけど、それは食べず嫌いだと思う。そんな簡単に毎日のように食べ物を無駄にしてしまうなら給食より弁当の方がいいように感じた。もちろん給食の方がバランスも良いし、温かいから体にはいいけど、弁当の方が食料を捨てる量が減らせるような気がした。

○私は食料が余り、多分捨てるだろうなと思う時がある。それは給食の時だ。容器を返しに行くときに「今日は軽いな」や「今日は重いな」とどちらも思うことがある。「軽いなあ」と思ったときは、中は少ないし、「重いなあ」と思ったときは中が多い。その「重いなあ」と思ったときに、「これって捨てられるのかな」と感じる。人によって食べる量も違うし、体調によって少なくなる人もいるが、できるだけ残さないことが今できる大切なことだと思う。また、今の環境に感謝しながら食事をするのも大切だと思った。

○僕は幼い頃から父に、このような記事の内容を言われ続けていました。なぜなら好き嫌いがとても激しく、よく食事で残したりすることがあったからです。こんな時、いつも父に食べ物を食べられなくて腹が膨れている子どもたちの写真を見せられました。写真と一緒に「お前は世界にはこんな子どもたちがいるのに、ご飯を残すという事に、何も思わないのか」と叱られていました。そういう時は、父を恨むことが多々ありました。ですが、今になってみると、父の言っていた言葉の大切さというのが身にしみて分かるような気がします。僕は見た写真の女の子のように、日本にも飢餓にまで追い込まれている人もいます。僕は、そのような子どもたちを助けられるような消防士になり、世界で苦しい思いをしている人たちを救える人になりたいです。

○与えられた食事はありがたかったと思う。そうすることで食料廃棄物を少なくしたい。またその廃棄物も食べられるような技術があれば、廃棄物もすべて飢えている人に分けあげればいいと思う。「フードバンク」や「TFIT」というものを自分はよく知らなかったが、余った食材を分け与えようとするのはいいと思う。家に帰って少し調べたいと思った。とりあえず、食事は全部残さないようにしたい。

○飢えてる人が世の中には多くいるけど、我々が普段食べている給食はいつも多量に残っている。現代の人たちは美味でないものは捨て、美味なものは食べるという社会になっているような気がする。つまり、今の人たちは、食べ物のありがたみを忘れていているように思う。日本が戦争中の時は食糧に困ったが、現代では食糧は腐るほどあるから食べ物のありがたみを忘れてしまったのだろう。なので、今食糧があるという状況は幸せだということを出してほしい。だから、今飢餓になっている国の人々に、今、日本に余っている食糧を分け与えてほしい。

○小学生の頃は働かないから悪いと思っていて、ほんとうは紛争に巻き込まれて家がなくなったり、体の一部が使えなくなったり、父親、母親を亡くしたりで、働けなかったということはまだ知りませんでした。世界中の人が平等に食べ物を食べられるようになってほしいと思います。

○自分たちは、多くの食べ物が身のまわりにあります。なかでもコンビニに行けば何でも置いてあるし、好きなものを好きなだけ食べれます。でも世界には食糧不足で、飢えている人がいる現状があるのが信じられません。自分は野菜などの食べ物が苦手で、残すことが多くあります。でも、世界の人からみたらしてはいけないことなんだなと思いました。余った分を捨てるのではなく、この世界の現状を変えるために動き出した人を、僕は凄いなと思いました。このあたりまえに感謝して、世界の現状を理解して、これからの生活をしていこうと思いました。

○こういった問題が起きているのに給食をいつものようにポイポイ減らすのはどうかしている。とはいっても僕も小学生の頃、嫌いなものは必ず減らしたりしていた。別に減らすことは何も悪くないと思っていたからだ。

中学生になって、給食の日になった日の朝のことだが、ユニセフのCMを見て、母になぜアフリカの子はすぐに亡くなったりするのか聞くと「食べることもできないから」と言われた。このとき僕は簡単に食べ物を減らしているけど、そんなことすら出来ない人たちがいるということを知った。だから、僕は給食など、もう減らしていない。これからもそうしたい。できればみんなが減らさずに与えられた分、すべて食べてほしいと思う。

○私たちが毎日朝学校に行き、友達と出会い、授業を受けて家に帰れば家族がいる。これが私たちにとって普通の暮らしです。しかし、この普通に暮らしているということが、どれだけ幸せなことなのか、普通ではないことをこの記事を読んで実感しました。前、本を読んでいてある国では道ばたで命を落とす人もいます。その状況がまだ世界にあるということ、私たちのちょっとした行動で、その人たちを救えるということ。「TFIT」や「フードバンク」など活動を起こしている人たちが日本にもいるということ、を誇りに思って、給食を残さないなど、無駄を無くしていこうと思いました。いつか世界中の人が平等な生活ができるようにしたいです。

<保護者のみなさまへ>

いよいよ明日17日から進路決定に向けての三者懇談会を行わせていただきます。今回の三者懇談会では、現在の成績と進路希望先と過去の入試状況などを見合わせて、学年職員全員で検討した結果を担任よりお話しさせていただきます。検討結果を踏まえてお父さまとよく話し合ってください。受験校もしくは進路先を最終決定していただきます。

なお、以前よりお知らせしておりますように、私立高校に関しましては決定後変更のないようお願いいたします。

また、学校推薦に関しましては、1月の三者懇談会で結果をお知らせさせていただきます。

懇談につきましてはなるべく予定の時間に始めさせていただく予定ですが、多少前後するかもしれませんのでご了承ください。また寒い時期ですので温かくしてお越しください。

ご来校の際、先日配布させていただいた「住所・名前の確認書」および「印鑑」をご持参いただきますよう、よろしくお願いいたします。

